

なんかい

NANKAI

vol. 119

2020.8

南海寮 広報委員会

熊本県天草市本町下河内1685番地の1

TEL 0969-23-3850

FAX 0969-22-4977

Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp

URL <http://www.nankaiyou.or.jp/>



食事の前やトイレの後、活動の節目など、歌にあわせて楽しく手洗い

♪ 手を洗いましょう（「手をたたきましょう」の替え歌）



1

♪ 手を洗いましょう

流水で流した後、石鹸を手に取り
手のひらをしっかり洗いましょう！



2

♪ ゴシ ゴシ ゴシ × 2

手の甲や手首も洗いましょう！



3

♪ 指先洗おう

指を立て、爪の中も洗いましょう！



4

♪ 反対側もゴシ ゴシ ゴシ

反対の手も洗います！



5

♪ 指の間洗おう × 2

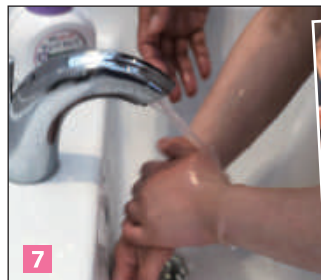
指の付け根までキレイに！



6

♪ 親指洗って

親指も入念に！



7

♪ さあ流しましょう

流水でよく洗い流しましょう！



キレイになりました！

晩春

70代の男性利用者Nさんの部屋には、若かりし頃の写真が飾られています。ベッド脇のテーブルには、昔好きだったお酒やタバコも未開封のまま置かれています。部屋では聞き心地の良い音量で演歌も流れていました。1日の大半を居室のベッドで過ごされているNさんは傾眠傾向で、すでに職員の声掛けにも顕著な反応がありません。

4月下旬、数名の職員が見守る中、Nさんは眠るように息を引き取られました。自身がその瞬間に立ち会ったわけではありませんが、苦しまれる事なく、とても穏やかな臨終であったと看取った職員から話を聞きました。（正確にはこの後、主治医が来て死亡を確認）施設として初めて「看取り」を行ったケースでした。

迫られた決断

Nさんは数年前から嚔下障害による誤嚥性肺炎を度々発症し、これまで何度も入院退を繰り返していました。昨年10月からも医療機関に入院し治療を受けていました。軽度の知的障害をお持ちでしたが、10年程前から認知症（正式診断なし）が進行し、意思疎通も難しく、四肢の拘縮など末期症状がありました。免疫力低下もありMRS Aを保菌、また食事についても経口摂取が

難しい事などから、施設では退院後の受け入れが難しい状況でした。そのため、当初は療養型医療施設を視野に入れ、家族とも相談を進めていました。しかし、主治医より現在のNさんの病状が不可逆的である事や、家族が経管栄養や延命治療を希望されていない事、療養型も病床数の問題で難しいこと等の説明を受けました。つまり施設での「看取り」を勧められたのです。半ば選択肢のない状況の中で迫られた決断でした。

未知への不安

入所者の高齢化や、入所施設の役割、療養病床を廃止していく国の流れなどを考えれば、いずれは直面したであろう課題でした。しかし、緊急時における夜間や土日等の看護体制が充分でない現実的な問題や、何より経験のない未知の事に対する漠然とした不安がありました。そのため、その後も主治医と意見交換を行い、「看取り」に関する説明や指導を受けたり、看取り経験のある介護事業者等が集まるサロンに参加するなど一定の理解を深めながら、現場の役職者とも協議を重ねた結果、Nさんを「看取り」として受け入れる決断をしました。

合意形成

職員との合意形成を図るべく、説明会や研修会も数回開催しました。しかし、従事

者の多くは「人の死」に関わった経験がありません。事前に行ったアンケートには、

「自信がない」「できれば受け入れてほしくない」「夜勤が怖い」等といった率直な意見も多くありました。直接耳にしたわけではありませんが、一定の反発や抵抗はあったように思います。ただ幸いにも病院勤務経験のある看護資格を持つ支援員が数名いたため、物心両面での拠り所となっていた部分は、職員が現状を受け止める上で大きかったと思います。

臨終

12月、病院での治療を終え、Nさんが施設に戻ってこられました。最期を迎えられる事となった4月下旬までの約4ヶ月、主治医による2週間に一度の訪問医療を受けながら施設での「看取り」ケアが始まりました。発熱や褥瘡^{じよくそう}、食事摂取状況など日々の変化に応じて、他職種がその都度カンファレンスで協議し、手探りながら出来る限りの支援を行いました。当初難色を示していたであろう支援員も、いざ現場に入ると看護師や栄養士と連携を図りながら患直に支援にあたってくれていました。それでも

日を追うごとに食事が入らなくなり、身体は痩せ細り、褥瘡^{じよくそう}も悪化。そして最期の時が訪れました。下顎呼吸^{かみかく}（努力呼吸）が始まり、血圧が低下、脈が取れなくなり、間もなくして呼吸が停止。冒頭のとおり、眠るように静かに息を引き取られました。

入所施設の役割

利用者の暮らしを総合的に支援するという入所施設の役割を考えると、利用者がいつまでも住み慣れた場所で生活を送りたいといったニーズを受け止め、可能な限り応えていく事は至極当然の事です。しかし現実には、高齢期を迎え医療的ケアを要する状態になった利用者に対して、それを実現できるだけの制度や政策が十分ではありません。また、施設としても十分な環境や設備、知識や技量を持ち得ていないというのが現状です。利用者やその家族の多くが、「できる限り施設で」といったニーズを持たれている中で、住み慣れた場所での生活スタイルを尊重し、その継続性をいかに担保していくかが我々に問われています。

今回、主治医や家族の協力もあり、Nさんと無事にお別れをする事ができました。とは言え、今後全てのケースで「看取り」ができるかと云えばそうとは言え切れません。しかし、今回の経験は、利用者の暮らしをより良く支えていくという真理について、改めて深く考える機会になりました。それは、単に施設が「看取り」や終末期ケアの機能を備えていくといった意味ではありません。その人の意思決定に合わせ、医療や介護保険など様々な資源を有効に活用できる技量と、あらゆる選択肢の中で利用者が意思決定できるような環境や仕組みを備えておく事が重要であると思うのです。

～ひらやま衣類販売～



～七夕～



なんかいフットアルバム

～ビアガーデン～



～生け花クラブ～



～センターミニ運動会～



パプリ～カ 花が咲いたら～



支援の現場から

支援内容や取り組み等をご紹介します。

看取りケアを通して Nさんへの支援

生活支援員 山本貴寛

私がNさんの担当となったのは今から4年程前です。当時60代だったNさんは加齢と共に体力の低下や認知傾向が強くなり、誤嚥性肺炎で入退院を繰り返される事もあって、その都度ご家族や多職種と密に連携をとりながら、支援方法の検討や見直しを行ってきました。看取りに至るまでの経緯は本紙2ページ目に掲載の通りで、昨年12月に退院をされて看取り（初期段階）が開始となりました。MRSAを保菌されていたり、看取りという初めての事に戸惑いや支援の困難さもありましたが、月に2回の主治医による訪問診療があり、これまでの支援の延長である事や、必要以上に難しく考えるものでもない事を理解する事で少しずつ不安は取り除けてきました。

毎日の支援のなかでは、主治医や看護師、栄養士等の多岐に渡る方達に相談しながら緩和ケアを心掛けました。両下肢の拘縮があり両足裏に褥瘡が見られ始めてからは毎日の治療や予防策等を考えました。また、食事の際には咽があたり、飲み込みが困難な時には無理に勧めるの

ではなく、口腔ケアやレモン汁で口腔内を刺激し唾液の分泌を促したり、食事を少量ずつ数回に分けて勧めてみる等の工夫を行ってきました。MRSA保菌のため、他者との接触は控えながら居室での音楽鑑賞や、天気が良い日は外の散歩を行うなど生活が単調にならないよう配慮を行いました。しかし、少しずつ食事が入らなくなり、これまでの支援方法も効果が望めなくなってきました。亡くなる

数日前には呼吸状態も悪くなり、徐々に衰弱されていく姿には焦りと不安がありました。それでも語り掛けたり、身体のマッサージ等を行いNさんの心理的不安や身体的不安を取り除けるように努めました。

4月23日の午後、私も含め複数人の職員が見守る中で静かに息を引き取られました。Nさんには学ばせて頂いた事がたくさんあり、新たな気付きや課題も見つかりました。私は今、看取りに関する資格の取得の為に勉強に励んでいます。今後も今回のようなケースはあるかと思いますが、利用者さんが最期までこの施設で良かったと思っていただけるようにその人の不安や苦痛を少しでも取り除けるような支援を行ってまいります。

ワクワクするような企画 イベントの計画について

生活支援員 井上千恵美

南海寮では日中活動として主に農作業や手芸・木工作業、健康維持のためのリハビリ活動を中心に活動しています。その他皆さんが楽しみにされている活動としてパンや菓子の移動販売、誕生会、余暇活動としてのカフェや巨大スクリーンを利用した映画鑑賞、カラオケ、各種レクリエーションなど様々な事を行っています。私は余暇活動を中心としたイベントなどを企画・実行する係ですが、日頃から利用者さんの事を見ていて、食べる事が好き、音楽を聴くのが好き、踊る事が好き、歌う事が好き、目立つ事が好き等利用者さんもそれぞれ好きな事や楽しいと思われる事がありそのような体験をもっとたくさんして欲しいと思います。こんな企画をしたらどうだろうか？

これをやったらみんな喜ぶだろうか？と考えている時が一番楽しく、ワクワクして実現できた時の事を想像すると1人ニヤニヤと笑っている事もあります。ここ数年で行った新たなイベントの1つでファッションショーがあります。これは、毎年夏と冬の時期に衣服の移動販売を利用しているので、新しく購入した洋服でオシャレをしてみんなの前で披露したらどうだろうとの考えから企画しました。ファッションのテーマを決めて、それにあった格好でメイクもして、ランウェイを歩き、周囲の方から拍手喝采を浴び、注目を浴びる事で皆さん普段とは違った表情を見せて楽しんでおられる大好評のイベントです。

イベントや行事を開催するのも、実際に企画する私達職員が楽しくなければ利用者さんも楽しめないと思います。これは難しいから無理だろうと直ぐに諦める

のではなく、どうしたら実現できるか皆でアイデアを出しながらワクワクドキドキできるように今後も知恵を出し合っていきたいと思っています。



通所センターだより



新型コロナ、大雨と大変な世の中となっていますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて、外出等のイベントをなかなか計画できない今日この頃ですが、「ミニ運動会」を開催しましたのでご紹介します。これまでのセンターでのイベントには、「プチ」外出や「ミニ」運動会等、どうしてタイトルが私の体型と反するのか…少し気になっています。（涙）

毎年開催されている天草地区施設親善スポーツ大会（愛藍ピック）がコロナ禍の影響を受けて中止となったため、今回の代替イベントを企画しました。雨でも実施できるように室内開催とし、本家「愛藍ピック」に匹敵する楽しめるプログラムを考えました。赤団・白団に分かれ、利用者さんの役割など考え希望を聞きながら計画し、開会や閉会式での挨拶や結果発表を行ってもらう事、競技は・玉入れ・パン食い競走・2択クイズ（写真を用いて出題）・ダンス（パプリカ・ハイヤ）に決まり、最後に利用者さんからの「弁当は？」との声で特注弁当を準備する事となりました。やっぱり運動会といえば弁当！ですもんね。

本番、選手宣誓など少し緊張が見られましたが、競技が始まると赤団・白団共に応援にも熱が入ります。以外に盛り上がったのが、有名人を写真で見分ける2択クイズで【本物のマツコデラックスはどっち？】（本物とそっくりさんの写真を見比べて正解を当てる）の質問に今まで下を向いて座っていた方が走って写真を見に来られました。マツコさんの知名度ってすごいですね。閉会式後はお弁当タイム。笑顔と思ったら皆さん、無言で食べられ、お弁当に夢中でした。

コロナ感染予防の観点からすべての利用者様に参加案内はできませんでしたが、別の日にもイベントを計画中です。最後に、リクエストに対応し、特注メニューを快く引き受けてくださった、「海鮮蔵様」「ぐうちよきパン様」、本当にありがとうございました。

浦上 寛司

編集後記

7月某日、今年も利用者さんの願い事が書かれた短冊が施設内に飾られました。「〇〇が欲しい」「〇〇さんに会いたい」など、一人ひとりそれぞれ違う願い事を見ると、自然とほっこりした気持ちになります。そんな七夕も今年は雨でした。ただの雨ではなく、九州を中心とした集中豪雨です。各地で川が氾濫したり、家や車が流されたり等、甚大な被害をもたらしました。県内でも多くの方が亡くなられたり、土砂崩れに巻き込まれる等、毎日のように被害状況が新聞やニュースで取り上げられていました。

当施設での被害はなかったのですが、いつ自分達が同じような状況になるのか、誰にも分かりません。その為にも日頃より防災意識を持ち、利用者さんが安心して過ごす事が出来るようチーム一丸となって取り組んでいきたいです。

最後に亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。そして、被害にあわれた方のお心が少しずつでも晴れますようお祈り申し上げます。

山本富喜子

前田先生（生花講師）長い間ありがとうございました！



長い間、ボランティアで生け花の講師を務めて頂いていた前田恵美子氏が昨年度末で退任されました。四季折々の花で私たちの目を楽しませて頂き誠にありがとうございました。なお、今年度より松元照子氏に講師をお願い致しております。

■退職職員…中野 一文（支援員）

今後の予定

8月25日 夕涼み会（施設内のみ）

※コロナウイルス感染症予防の観点から、夕涼み会のご家族をはじめ、地域住民の皆様など外部からの来訪者はお招きしない形で開催をさせていただきます。また、今後の外出を伴う行事等も情勢をみながら判断させていただきます。

社会福祉法人啓友会 令和元年度財務諸表等の電子情報開示について

令和元年度の財務諸表等については、以下のホームページでご覧いただけます。

▶ 自法人HP…<http://nankairyuu.or.jp/disclosure/>

▶ WAM-NET…<https://www.wam.go.jp/wamnet/zaihyoukaiji/pub/PUB020000E00.do>



南海寮広報委員会

ご高覧頂き、ご意見・ご感想などありましたら keiyukai@cup.ocn.ne.jp までお寄せ下さい。
機関紙「なんかい」はホームページアドレス <http://www.nankairyuu.or.jp/> からご覧になれます。